

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 4 月 10 日

【評価実施概要】

事業所番号	2170500769		
法人名	社会福祉法人 暖家		
事業所名	グループホーム 暖家		
所在地	各務原市鵜沼各務原町9丁目204-3 (電話) 058-370-9915		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成21年3月26日	評価確定日	平成21年5月7日

【情報提供票より】 (平成 21 年 3 月 12 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 6 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 2 人, 非常勤 6 人, 常勤換算	5.1 人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨スレート葺き平屋造り		
	1 階建ての		1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	1,500~ 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要 (平成 21 年 3 月 12 日 現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名	
要介護1	2 名	要介護2		2 名		
要介護3	3 名	要介護4		2 名		
要介護5	0 名	要支援2		0 名		
年齢	平均	81.5 歳	最低	66 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鵜沼中央クリニック、永井歯科
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域密着型複合施設に配置されたグループホームであり、複合施設の増築工事の影響をうけることを考慮し、1年間業務を休止、その後再開したところである。ホーム周辺も整備され、利用者も外出しやすい周辺環境となった。一人ひとりの生活目標を掲げ、リハビリや日課に目標を決めシールを貼って、すること・できることの楽しみを支援している。法人の健康館、喫茶を利用したり、法人の開催する夏祭りや幼稚園児の訪問等合同での活動に参加し、変化のある日々を送っている。利用者個別の特徴の把握に努め、スキンシップを大切に日々のケアに当たっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	1年間の業務休止があったが、ホーム再開後、転倒防止や地域との交流を課題にあげ、積極的に取り組んできた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	1年間の業務休止後の再開にあたり、職員とホームの新しい取り組みを目標だてた。外部評価を受けるにあたり、この1年間の取り組みをミーティング等において全職員で振り返り、管理者がまとめ記入した。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	母体法人が持つグループホーム、施設と合同で開催し、利用者の家族もそれぞれの施設利用の代表が参加している。各施設の活動状況、ヒヤリハット、法人の行事計画等の報告や地域役員との話し合いが行われている。市職員からも積極的な質問や意見が出されている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会があり、第1回を昨年クリスマス会として開催し、職員と家族の信頼関係が深まり、家族からの率直な意見を聞けるようになった。職員は面会や行事等でホームを訪問した際に家族から意見や希望を聴いている。出された意見は大切にし、運営に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、地域で行う清掃活動等に参加し、交流をしている。法人が行う祭り等でグループホームを知った地域の住民が、散歩の途中でホームに立ち寄りたり、地域で挨拶を交わしたりしている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームとしての理念を「何でも言ってください私達も一緒に頑張ります」と挙げ、運営方針として、「家族との結びつきを重視し、関係市町村、地域の保健医療福祉サービスとの綿密な連携を図り総合的なサービスの提供に努める」と明記している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、理念の実践に向け、日々職員が積極的に意識できるように毎日のケアの中で利用者の声を拾い上げ、「ほっと報告」を記載し、職員間で良いことの気付きを報告し合う取り組みを始め、職員の取り組みに積極的な姿勢が増えた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会への加入、運営推進会議で地域役員と意見交換する等の交流をする。地域での清掃活動や法人が行なう祭り等でグループホームの存在を知った地域住民がホームに立ち寄りたり、道で挨拶を交わす交流がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	グループホームは、1年間、隣接する法人施設の工事の影響から業務を停止していた。再開後、転倒防止や、地域との交流を課題にあげ取り組んできた。また、今後、外部評価での改善すべき課題にも積極的に改善策を作成し、取り組んでいく姿勢がある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、母体法人が持つ施設と合同で、3ヶ月に1回、平日の夜に開催している。市職員、地域自治会長、地域民生委員、地域班長、地域包括支援センター、各施設利用者の家族代表4名、法人の管理者やケアマネジャー等が参加している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議にて、地域とのかかわり、利用者の外出等の危機管理、ヒヤリハットの内容報告等細かく報告し、意見をもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の面会は、多い人では週1～2回程あり、少ない人にも月1回の面会を求め、家族に連絡し、利用者の生活状況、健康状態を報告している。緊急時や連絡事項が有る場合は随時電話で連絡している。現在、便り等文書による報告は行っていない。	○	面会時の報告や電話連絡も大切であるが、利用者ごとの暮らしの様子やホームの様子を知らせる文書による報告にも取り組まれない。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会があり、第1回をクリスマス会として開催し、利用者全員の家族が参加した。職員との信頼関係も深まり、家族の率直な意見を聞けるようになった。面会や行事等の訪問時に家族から希望や意見等を聴き、出された意見は大切にし、運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームの休止中、利用者と職員は法人の別施設に移っていたが、再開により、また、「暖家」に集まった。新しい人も入居したので、互いの相性を調整したが、職員の異動は無く戻っており、顔なじみとして落ち着いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回、母体法人の施設が合同で開催する勉強会があり、非常勤、夜勤専門の職員も参加し、参加できない者には資料の配布等を行っている。毎月のミーティングで、職員間のケアの統一を図るための細かい話し合いを行い、取り決め等確認し、職員の技量向上のために内部で学習会を行っている。	○	記録物の内容にバラつきがあるため、今後は、記載内容や決まった項目をもれなく記載する等記録物の記載方法を徹底させる学習会も期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	母体法人が持つグループホームとの間で勉強会等交流がある。岐阜県グループホーム協議会での交流もある。市の開催するグループホームの部会は、開催の連絡が遅く、参加できる機会が少ない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望があった場合、本人が納得して入居できることを大切にし、母体法人の持つ施設をいろいろ見学し、馴染めて行けそうな施設を選択し、安心して、納得して入居を受け入れ、生活が始められるようにしている。1ヶ月入居してみて判断する場合もある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	現在は、1対1で支える必要がある利用者が多いが、タイミングを図ったり、様子を見ながら利用者と共にいたり、任せたりし、喜怒哀楽を共にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日常の言葉や様子をよく観察し、言葉を発することができない人にもしぐさや表情から気持ちを読み取るように努めている。ほぼ寝たきりだった人が、スキンシップ等を重ね、本人の気持ちを大切にし、伝い歩きや気持ちを表現できるまで支えてきている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時に、家族に利用者の様子を見てもらい、本人や家族の意向を聞き、医療面では母体法人の関係者に連絡し、職員間の申し送りで情報を集めて介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、個別に介護計画の実施の状況を報告し、利用者にあったものとなっているか、確認を行っている。3ヶ月に1回、定期的見直しとし、介護計画の進捗状況の確認をしている。又、利用者へのケアが職員間で統一されるよう打ち合わせも行う。また、急な変化があった場合は随時の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体法人の経営する福祉施設や健康施設、喫茶等が周囲に隣接し、利用者ほどの施設も利用できる。ホーム隣に新設した法人施設の浴場を利用できる。喫茶は半額で利用できる。モーニングを時々楽しんでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の協力医がかかりつけ医となり、毎週金曜日に往診がある。法人の看護師がホームを前日に訪問し、利用者の健康状態の報告を受け、医師への相談内容の確認を行っている。利用者の希望する医療機関には、家族が受診支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化については、医療の支援体制は整っており連携は可能であるが、居室等構造的な面での課題がある。「グループホーム療養介護共同計画書」を主治医、本人、家族で作成している。現在、2階に居室があった利用者が階段昇降が難しくなり、本人・家族と相談の上、1階の部屋に移動した。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	声かけは本人の側で行っている。トイレは車いす利用者のためにカーテンを設け、プライバシーに配慮している。書類等は、人の出入りの少ない部屋に保管してある。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活の目標が廊下に張り出されており、目標の実施がカレンダーや票にシールでチェックされ、利用者の励みとなっている場合もある。一つの行動を始める際には、常に利用者にあった声掛けを丁寧に行っており、散歩や入浴等の拒否が少ない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	副食は、法人施設から調理されたものが届けられ、主食と汁類はホームで作っている。利用者の希望は、3週間前に管理栄養士に伝えられている。毎月自由メニューの日があり、誕生日献立や外食、利用者好みのおやつづくりを行っている。職員の食費は法人が負担し、利用者と共に食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ホーム内に浴槽はあるが、隣接する施設の広い浴場を利用しており、利用者は外風呂に出かける感覚で歩いて出かけ、入浴拒否のあった人も誘われて出かけ、入浴ができています。雨天の場合は、玄関先から車に乗り、入浴に出かけており、利用者の評判は良い。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	母体法人の持つグループホームに幼稚園児の訪問があり、共に楽しんでいる。また、職員と利用者3人程で、週1~2回健康館に出かけ、体操をしている。ホームには仕事をしに来ているという思いの人があり、その気持ちを大切に対応している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や近隣にある法人の喫茶店や施設への訪問は、ドライブと日常の外出でしている。隣接する施設で共用する畑は、周囲の道も整備され、広く段差もなくなり、利用者も畑に入りやすく、また、歩きやすくなった。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関と裏口の出入り口には、外部侵入者を防ぐ施錠があるが、利用者の閉塞感が無いように工夫されている。不意の外出を把握できるように、出入り口に風鈴がつけられ、通ると音がする。様子を見て、職員は共に外にでかけ、気持ちが落ち着くように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム再開後、避難訓練を行った。消火器は廊下に置くと利用者が触って危険なことがあり、目に触れないように設置しているが、職員は消火器のある場所の確認はできている。4名の夜勤専門職員は、避難訓練に参加していない。	○	夜間の災害も想定されるため、夜勤の職員も参加し、夜間の避難方法等も検討されたい。また、運営推進会議でも避難誘導の方法を提示し、地域からも応援が得られるよう検討されたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士がカロリーを考えた献立を立てており、摂取量は毎回チェックし、記録に残している。水分は、医師の指示がある利用者はその指示に従い、他は1,000~1,500cc程度を目安に配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは民家を改修したコの字型のゆったりした和式の建物で、自然の風が入り、中庭を望む廊下にはいろいろなソファがあり、利用者は庭を眺めたり、移動の途中で休んだりしている。食堂はやや狭いが利用者それぞれにお気に入りの場所がある。狭いトイレは介助時の場所を確保のため、出入り口は2重のカーテンで対応している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、改築毎に床や壁を張り替え、補修され、各部屋の雰囲気は統一せず、変えている。馴染みの品の搬入もあり、落ち着いた居場所となっている。部屋のドアには本人にとっての目印になる表札が取り付けられ、混乱なく居室の出入りができている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。